

有限会社やさか共同農場

■事業

有機味噌の量産体制確立に向けた設備導入により安定的な供給体制の構築

■対象類型

ものづくり技術 バイオ

■導入機械装置

味噌500g(300g)充填トップシール機

☑ものづくり技術 ☐革新的サービス

量産化、短納期化、省力化、小容量化を実現 有機味噌商品の量産体制整う

4人の若者が共同体目指して 旧弥栄村に入植

【経営理念】

健康な食生活を支え、生産者の誇りがこもる安全でおいしい商品をお届けします

有限会社やさか共同農場は、1972年に現在の相談役佐藤隆さん(64)達、農業とは無縁の4人が共同体建設を夢見て浜田市弥栄町(旧弥栄村)へ入植。無農業農産物を生産、販売する産直運動と過疎村の復活を目指して、荒れ地を開拓、廃屋を改築して住み始めたのが始まり。シイタケやコマツナ(小松菜)、ハウレンソウなど広島への野菜直販を手掛け、さらに冬場の大雪でも可能な仕事として味噌製造を柱に農産加工に取り組み、体験農園や研修制度も取り入れた。

当初は「弥栄之郷共同体」という任意団体だったが、30年前、生産流通部門を有機農業生産法人「有限会社やさか共同農場」として法人化。地元と協力して大豆の集団転作や、都会地からの田舎暮らしや農業を志す仲間と一緒に、有機の野菜や加工品づくりに取り組んできた。その成果が認められ、2013年には全国農業コンクールでグランプリ賞、2015年に環境保全型農業推進コンクールで農林水産大臣賞(有機農業の部)を受賞した。

有機 JAS 認定圃場産の原材料にこだわり、 差別化図る

食の安全・安心への関心が高まっている中、有機JASの食品に対する市場規模も拡大している。2002年に有機味噌に取り組んで以来、販売数量は年々増加。しかも、原料の産地にこだわる消費者が増えている。

そこで、全国でも少ない自社農場の有機JAS認定圃場で栽培した原料(米、大豆、大麦)のみで有機味噌の量産体制を目指すことにした。しかし、充填作業が手作業では大量受注や短納期に対応できないため、全自動定量充填包装機の導入に踏み切った。

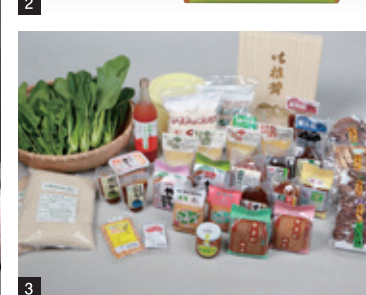
充填作業の自動化により3倍以上の量産化が見込まれた上、自動でシールも貼ることができ、省力化も図れた。さらに、導入前はパッケージが袋詰め、冷蔵保存が必要だったが、新設備はパッケージがカップ容器のため、常温対応が可能になり、店頭で扱いやすくなったのも大きなメリット。また、袋詰めは1袋750gだが、カップでは500gと300gに対応できるため、核家族化などによる小容量化のニーズにも対応できるようになった。



やさか共同農場の皆さん



1 今回導入した全自動定量充填包装可能な味噌500g(300g)充填トップシール機
2 有機味噌商品
3 野菜、加工食品



販路拡大へ県外農業法人との ネットワークづくりも進む

自社農場の有機JAS認定圃場で栽培した材料のみで有機味噌の量産体制づくりを目指しているが、2017年は天候不順で量産できるほどの原材料が確保できず、新商品は数量限定販売で対応せざるを得なかった。

現在、地元のJAや集落営農組織と共同で、水田の転作作物として、減農業や有機栽培の水稻、大豆、大麦を約20haで栽培。また、益田市高津町の国営パイロット圃場10haを確保するなど約30haの有機JAS認定圃場で有機農業に取り組んでいるが、数年後には45haに拡大する計画だ。

有機農業の担い手確保も課題。そのため農村塾を開講し、有機農業を志す若者の支援や研修生、海外実習生も積極的に受け入れている。

海外に向けては現在、小ロットだが香港のスーパーに有機白味噌、黒大豆味噌の2種類を輸出している。近畿や九州の農業法人と共に販売法人を立ち上げ、広域ネットワークづくりを進めており、今後、このネットワークと組んで本格的な輸出事業に取り組む考えだ。JETRO(日本貿易振興機構)主催のセミナーや商談会にも積極的に参加していく。

■Company Data

有限会社やさか共同農場



やさか共同農場のみそ加工場

代表者名：佐藤 大輔
設立年：昭和47年
資本金：10,000千円
従業員数：19人
業種：食料品製造業
住所：〒697-1212 島根県浜田市弥栄町三里ハ38番地
電話：0855-48-2510
FAX：0855-48-2066
URL：http://fish.miracle.ne.jp/sennin-g/yasaka/yasaka_backup/nojo_home.html